

近衛府下級官人補任稿―府生―（1）

西山史朗

はじめに

近衛府下級官人補任は、近衛府が成立した天平神護元年（七六五）から鎌倉中期までの期間における近衛府の将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛の官人の補任状況を調査し、補任資料として整理したものである。

近衛府下級官人^①のうち、天平神護元年（七六五）から天仁二年（一一〇九）までの期間における将監在職者の補任状況についてはすでに公表している^②。対して本誌では、近衛府下級官人のうち、府生以下の近衛府下級官人の補任状況について掲載し、そのうち本稿は紙数の関係上、承和七年（八四〇）～天仁二年（一一〇九）までの期間における府生在職者を掲載する。残りの補任状況については、将監以下の補任状況と並行して順次公表していきたい。

一、近衛府下級官人補任について

近衛府官人の補任として、市川久編『近衛府補任』^③ならびに、笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人―その（一）」及び「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人―その（二）」^④がある。

『近衛府補任』は大同二年（八〇七）から建久九年（一一九八）までの左右近衛府大将・中将・少将の補任状況を掲載し、「左右近衛府官人・舍人補任表」は大同二年（八〇七）から長保二年（一〇〇〇）までの左右近衛府の将監以下の近衛府官人の補任状況を掲載する。前者は平安初期から鎌倉初期までの近衛府官人の補任状況について載せるが、将監以下の近衛府官人は対象とせず、後者は、将監以下の近衛府官人の補任状況を載せるが、採録時期は長保二年（一〇〇〇）ま

でとする。また、両者とも左右近衛府が成立した大同二年（八〇七）以降を採録時期の上限としているため、左右近衛府成立以前の近衛府に所属する官人は調査の対象としていない。

本補任では右記補任のそれぞれの内容を補う形で、近衛府が成立した天平神護元年（七六五）を起点とし、『近衛府補任』に掲載されなかった将監以下の近衛府官人の補任状況を調査した。また「左右近衛府官人・舍人補任表」に掲載されなかった長保二年（一〇〇〇）以降の将監以下の近衛府官人の補任状況についても調査し、整理した。

日本古代における官人のうち、極位を五位或いは六位以下とする下級官人の史料上の記載例は少ない。記載例が確認できても、それは散発的であることが多く、官人の活動を追って調査することは困難である。また、人物については、姓名いずれかの記載しかない、或いは当て字による姓名の記載がなされており、個人の特定も容易ではない。しかしながら、近衛府下級官人に関しては、儀礼や行幸などに供奉するといった近衛府下級官人としての基本的な役割や、近衛府下級官人が兼任する楽人・舞人、隨身といった役割の性格上、古記録史料を中心として儀礼・行事などに従事する近衛府下級官人の活動が散見される。また、右近衛大将を約四十年務めた

藤原実資の日記『小右記』などが顕著な例であるが、近衛府大将・中将・少将を務めた人物の日記には、近衛府府務に従事する近衛府下級官人の姿も詳細に記されている。なかには、特定の人物が頻出してみえ、一定期間その経歴や活動を追うことも可能である。さらに、近衛府下級官人を代々輩出する一部氏族の系図も伝わっており、古記録史料のみでは明らかにしない氏族内の系譜や、氏族間の繋がりも確認できる。

古記録史料と系図史料とを併用することで、より具体的な近衛府下級官人の実態を解明することが可能である。したがって、近衛府下級官人を対象として検討することで、当該期における下級官人の在り方や活動実態について、一定程度解明することができよう。^⑥

以上をふまえ、近衛府下級官人の補任状況について調査し、補任稿としてまとめたものを資料として公表することで、今後の近衛府研究ならびに下級官人研究、そして史料読解に資することを期する。ただし、史料の見落としや、内容の錯誤・脱落もあると思われるため、大方のご教示、ご批正を乞い更なる内容の充実、確実性を高めていくと同時に、新たに補任例が確認できた場合には適宜補遺として今後も公表していきたい。

二、凡例

①本補任表は左右近衛府のうち（表①）、将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛の官人の補任状況を官職ごとの項目に記したものである。本稿ではそのうち、承和七年（八四〇）～天仁二年（一一〇九）までの期間における府生在職者をまとめている。

②左右近衛府いずれかに所属しているかが不詳の場合は、「左右不詳」の項目に記した。

③人物の表記について、本来近衛府府生に相当位階の規定は設けられていないが、位階が明らかである場合は「」内に記載し、位階が不明の場合は「（）」と記載した。加階の記述がある場合は加階後の位階を記載、備考にその内容を記載した。

④在職である、あるいはそう思われる場合は「在」、新たに任じられた場合は「任」、すでに死去していることが明らかである場合は「故」を備考欄内の先頭に記載した。

⑤兼官、兼職がある場合は備考に記載した。その他必要と思われる事項を備考欄に記載した。

⑥出典の記載は（『史料名』年月日）で示し、閏月は○枠で示した。基本的にその年の初見の月日を記載したが、初見

以降においてより詳細な所属、経歴などの記述が確認できる場合はその月日を記載した。

⑦それぞれの出典は（）内に記載し、また一部の史料名については以下の通り略記した。なお、史料のうち古記録史料の名称について、大日本古記録、史料大成、史料纂集収録の古記録は、それぞれの名称をそのまま記載した。『群書類従』、『歴代残闕日記』、そのほか史料紹介などに収録、掲載されている古記録については、同一人物の日記でも、日記の名称がそれぞれ異なる場合が多いため、便宜的に記主の名称を冠して『○○卿記』、『○○公記』と記載した。

略記一覧：『東大寺要録』（『要録』）、『東大寺統要録』（『統録』）、『樂所補任』（『樂所』）、『大間成文抄』（『大間』）、『魚魯愚鈔』（『魚魯』）、『妙音院相国白馬節会次第』（『妙音院』）、『平安遺文』（『平遺』）、『続日本後紀』（『続後紀』）、『日本三代実録』（『三代』）、『村上天皇御記』（『村上』）、『本朝世紀』（『世紀』）、『日本紀略』（『紀略』）、『貞信公記』（『貞信』）、『御堂関白記』（『御堂』）、『小右記』（『小右』）、『左経記』（『左経』）、『平行親記』（『行親』）、『定家朝臣記』（『定家』）、『江記逸文集成』⁽⁷⁾（『江逸』）、『土右記』（『土右』）、『水左記』

（『水左』）、『時範記』⁽⁸⁾（『時範』）、『重憲記』⁽⁹⁾（『重憲』）、『榮昌記』⁽⁹⁾（『榮昌』）、『後二条師通記』⁽⁹⁾（『師通』）、『朝隆卿記』⁽⁹⁾（『朝隆』）、『忠通公記』⁽⁹⁾（『忠通』）、『長秋記』⁽⁹⁾（『長秋』）、『雅実公記』⁽⁹⁾（『雅実』）、『中右記』⁽⁹⁾（『中右』）、『平知信朝臣記』⁽⁹⁾（『知信』）、『兵範記』⁽⁹⁾（『兵範』）、『山槐記』⁽⁹⁾（『山槐』）、『実親卿記』⁽⁹⁾（『実親』）

⑧表作成にあたって、笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その（一）―」（『東京大学教養学部人文学科紀要』六一、一九七五）、『左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その（二）―』（『東京大学教養学部人文学科紀要』六六、一九七八）も参照した。

⑨人物比定について、刊本史料上では、姓或いは名が同名同音の場合、人物の混同が考えられる事例がみられる。このような場合や姓名いずれかの記載が無い場合などは、編纂者によって人物ならびに姓名の同定・推定がなされているが、疑問無しとしない部分もある。本補任では『群書類本部集』⁽¹⁰⁾、『樂家系図』⁽¹¹⁾および京都大学附属図書館所蔵『秦氏系図』・『下野氏系図』所収の諸氏系図、『平安人名辞典』長保二年⁽¹²⁾、『平安人名辞典』康平三年⁽¹³⁾上、『平安人名辞典』康平三年⁽¹⁴⁾下、『平安時代史事典』⁽¹⁵⁾、『藏人補任』⁽¹⁶⁾、『外記補

任』⁽¹⁵⁾も参照し姓名の推定を行い、備考欄にその旨を記載した。

⑩史料上、「〇〇子」、「〇〇男」と表記され、人物比定が困難なものは、人物欄中に「〇〇子」と統一して表記した。

⑪史料上、人物によって数年以上にわたり、近衛府官職に在職していることが確認できるものの、その間一部の年において官職の記載がなく、人名のみの記載例が確認できる。

その場合の年の補任状況は、本補任表には採録していない。

註

（１）本補任稿では、将監以下の近衛府官人を近衛府の下級官人と区分している。この区分は笹山氏による近衛府大将・中将・少将を上級官人、近衛府将監以下を下級官人とする理解に従ったものである。詳しくは、笹山晴生「平安前期の左右近衛府に関する研究」（坂本太郎博士還暦記念会編『日本古代史論集』下所収、吉川弘文館、一九六二）、同「左右近衛府上級官人の構成とその推移」（土田直鎮先生還暦記念会編『奈良平安時代史論集』下所収、吉川弘文館、一九八四、以上『日本古代衛府制度の研究』（東京大学出版会、一九八五）に再収）を参照。

（２）拙稿「近衛府下級官人補任稿（一）」（『佛敎大学大学院紀要―文学研究科篇―』四六、二〇一八）

（３）市川久編『近衛府補任 第一』（統群書類従完成会、一九九二）、同『近衛府補任 第二』（統群書類従完成会、一九九三）

- (4) 笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その(一)―」(『東京大学経学部人文科学紀要』六十―、一九七五)、同「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その(二)―」(『東京大学経学部人文科学紀要』六十六、一九七八)。以下本稿では、笹山氏作成の補任はまとめて「左右近衛府官人・舍人補任表」と表記する。
- (5) 京都大学附属図書館所蔵『秦氏系図』および『下毛野氏系図』。
- (6) とくに近衛府下級官人を対象とした先行研究については、拙稿前掲註(2)においても言及しているため、ここでは紙数の関係上、紹介するのみにとどめたい。先行研究としては、笹山前掲註(1)、中原俊章「中世随身存在形態―隨身家下毛野氏を中心にして―」(『ヒストリア』六十七、一九七五)、同「中世公家と地下官人」(吉川弘文館、一九八七)、齋藤拓海「摂関期の近衛府府務運営と下級官人―右近衛府年預將曹紀正方を中心に―」(『史人』三、二〇一一)、同「院政期から鎌倉初期の近衛府庁頭とその職掌」(『史学研究』二七四、二〇一二)、鈴木裕之「吉上」について―平安中後期の衛府活動実態の一端―(『日本古代学』五、二〇一三)、同「宿直・陣見参・月奏」考―左右近衛府の下級官人・職員勤務管理―(『明治大学文学部・文学研究科 學術研究論集』五、

二〇一五)、同「摂関期における左右近衛府の内裏夜行と宿直―夜間警備と貴族認識―」(『史学雑誌』一二五―六、二〇一六)などが挙げられる。

- (7) 木本好信編『江記逸文集成』(国書刊行会、一九八五)。
- (8) 宮崎康光「資料紹介『時範記』承徳三年夏」(『書陵部紀要』三二、一九八一)、同「資料紹介『時範記』永長二年冬上」(『書陵部紀要』三八、一九八七)。
- (9) 木本好信「『朝隆卿記』逸文集成稿一」(『龍谷史壇』一四二、二〇一六)。
- (10) 『群書系図部集』一〇七(統群書類従完成会、一九七三)。
- (11) 『衆家系図』(『伏見宮旧蔵衆書集成』三)所収、宮内庁書陵部、一九九八)。
- (12) 榎野廣造「平安人名辞典―長保二年―」(高階書店、一九九三)、同「平安人名辞典―康平三年上―」(和泉書院、二〇〇七)、同「平安人名辞典―康平三年下―」(和泉書院、二〇〇八)。
- (13) 『平安時代史事典』(角川書店、一九九四)。
- (14) 市川久編『蔵人補任』(統群書類従完成会、一九八九)。補任表中では「蔵人」と略記した。
- (15) 井上幸治「外記補任」(統群書類従完成会、二〇〇四)。補任表中では「外記」と略記した。

表① 9～12cにおける左右近衛府官制表							
区分	官職	総称	相当位階	左右合計 員数	隨身・ 權隨身	樂人・ 舞人	年預 庁頭
上級職	大將	—	正・従二位(従三位)	2(2)			
	中将	—	正三位～従四位(従四位下)	2～6(2)			
	少將	次將	従四位下～従五位(正五位上)	4～8(4)			
	將監	官人	従五位～従六位(従六位上)	8～(8)	(○)	○	○
	将曹	官人	従五位～従七位(従七位下)	16～(8)	○	○	○
医師	—	—	従五位～正六位(正八位)	1～(2)	—	—	—
	番人	—	正六位上～従七位	20～(12)	○	○	○
	番生	官人	—	13～(12)	○		
下級職	養生	物筋	—	4～	—	—	
	府掌	—	—	5～	○		
	近衛	—	従八位～大初位・无位	27～(40)	○		
	近衛丁	—	—	—	—		
	便部	—	—	(20)			
	直丁	—	—	(4)			

- ・左表は『近衛府補任』、『公卿補任』、各古記録、笹山晴生氏『日本古代衛府制度の研究』(東京大学出版会、1985)、古藤真平『中衛府・近衛府官員制度の再検討』(角田文衛先生寿喜記念会編『古代世界の諸相』、晃洋書房、1993所収)を参照して作成した。
- ・区分の項については、笹山氏(上掲)の近衛府内における官職格差に関する理解に従って区分している。
- ・位階および左右合計員数項について、それぞれの位階は史料より確認できる位階の範囲を記載し、また左右合計員数については史料から確認できる最低限の人数を記載した。
- ・位階および左右合計員数項中()内は、古藤氏(上掲)が復元された弘仁格式御時の左右近衛府の官員数を参照した。
- ・なお、9c以前の近衛府官職のうち、養主は長徳4年(998)に、府掌は元慶5年(81)にみえるのみ史料上での初見である。
- ・総称の項は、各古記録において近衛府の各職がそれぞれどのように総称されていたかを記載した。詳しくは吉川真司編『京都大学文学部博物館の古文書：第4輯 勅修寺家本職掌部類』(国文閣出版、1989)、佐々木恵介『「小右記」にみる醍醐朝近衛府の政務運営』(笹山晴生先生遺稿記念会編『日本律令制論集 下巻』吉川弘文館、1983所収)を参照。
- ・隨身、樂人・舞人、年預、庁頭の項については、近衛府官人が兼帯する職務の有無について示した。

左右近衛府府生							
和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典	
承和 7 年(840)			常澄氏繼 〔大初位下〕	在：『後後紀』承和7・5・8)			
貞觀 3 年(861)			平群氏道〔一〕	在：『要錄』卷三)			
元慶 5 年(882)	佐伯安雄〔一〕	在：『三代』元慶5・1・一)	境部常朝〔一〕	任カ：『貞信』延長2・3・24)			
延長 2 年(924)							
延長 7 年(929)	大原高平 〔正六位上〕	在：左京七冬令解(中立亮買地券文) 保証刀禰。(『平道』232)					
承平 6 年(936)					伴有時〔一〕 承平6・12・16)	在：近衛府府生カ。隨身。『九曆』 承平6・12・16)	
天慶元年(938)			建部奉朝〔一〕	在：『九曆』天慶1・3・6)	播磨陳平〔一〕	在：隨身。『九曆』承平6・12・16)	
天慶 5 年(942)	下仲秀〔一〕	在：『世紀』天慶5・5・4)	多修正〔一〕	在：『世紀』天慶8・10・25)			
天慶 8 年(945)			仲野正連〔一〕	在：『同上』			
天徳元年年(937)					宇自可(名不詳) 〔一〕	在：『小右』治安3・4・16)	
応和元年(951)	多公用〔一〕	在：『村上』応和11・1・17)					

応和 3 年 (963)	茨田重相(一)	在：茨田重方父。(『紀略』 同3・5・14、『村上』 同3・5・15、『小右』 長和3・5・17)			
康保 2 年 (965)			多公高(一)	在：兄右近將監公用の讓により御鷹飼。(『村上』 康保2・7・21)	
永觀 2 年 (964)			多公高(一)	在：(『小右』 永觀2・11・5)	
			播磨保信(一)	在：(同上)	
永祿元年 (969)	秦氏則(一)	任：摂政隨身。同日馬に乗るにより番長より府生に任ず。(『小右』 永祿1・2・16、4・28)	下毛野公助(一)	在：(『小右』 永祿1・4・28)	
	(姓不詳)久明(一)	在：(『小右』 永祿1・4・28)			
正暦元年 (960)			藤原公明(一)	在：(『小右』 正暦1・8・7)	
正暦 4 年 (963)	茨田重方(一)	在：(『世紀』 正暦4・10・26)			六人部近平(一)
	秦武則(一)	在：摂政隨身。(『小右』 正暦4・1・25)			猪俣氏胤(一)
長徳元年 (965)			紀光方(一)	在：(『世紀』 『権記』 長徳1・12・25)	在：(『権記』 正暦4・9・20)
長徳 2 年 (966)	韋部公友(一)	在：御所に入る。(『紀略』 長徳2・11・12)			在：もしくは兵衛府生か。(『小右』 正暦4・5・12)
長徳 4 年 (968)	韋部公友(一)	在：(『権記』 長徳4・7・10)	下毛野公季(一)	在：御鷹飼。(『権記』 長徳4・11・25)	
長保元年 (969)			身入部み保季(一)	在：(『小右』 長保1・12・29)	八僕部重種(一)
長保 2 年 (1000)	茨田重隣(一)	在：(『権記』 長保2・10・17)	(姓不詳)氏高(一)	在：(『権記』 長保2・1・13)	
	韋部公友(一)	在：(同上)	中臣嘉敏(一)	在：(『権記』 長保2・3・29)	
長保 4 年 (1002)			兼正親(一)	在：(『正近』 につく。(『権記』 長保4・3・18、同4・8・29)	在：「陣格勤者」(『小右』 目録第六「駒引事」 長保4・8・17)
長保 5 年 (1003)	(姓不詳)孝忠(一)	在：(『権記』 長保5・3・18)	中臣嘉敏(一)	在：(『権記』 長保5・4・21)	
	多為兼(一)	在：(『権記』 長保5・4・21)			
寛弘元年 (1004)					六人部仲信(一)
寛弘 2 年 (1005)	茨田重隣(一)	在：(『権記』 寛弘2・12・18)	中臣嘉敏(一)	在：(『小右』 寛弘2・1・11、同2・5・4/長和2・9・21、将曹。	任：右近か。(『御堂』 寛弘1・2・5)/「番長身入部仲延」。(『権記』 長保6・2・5)
			多武吉(一)	在：(『小右』 寛弘2・1・13)/大日本古記録本「小右記」は物部武能とす。	(姓不詳)保連(一)
			紀正方(一)	在：(『小右』 寛弘2・1・18、同2・12・17)	高扶重(一)
					在：同日、将曹欠により将曹に任ず。(『小右』 寛弘2・4・25)
					多武吉(一)
					在：(『小右』 寛弘2・7・17)
					山村吉光(一)
					任：東楽門を修造し府生に任ず。(『要録』 卷五)

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
寛弘5年(1008)	茨田重隣(一)	在：(『権記』寛弘5・9・25)	下毛野公季(一)	在：御鷹岡。(『権記』寛弘5・1・25)	(姓不詳)孝理(一)	在：内大臣隨身。(『小右』寛弘5・11・1)
	秦為国(一)	在：左大臣隨身。(『小右』寛弘5・11・1)/或いは播磨為国か。	紀正方(一)	在：格勤者。多武吉と比して将曹に任ず由。(『小右』寛弘5・10・29)/或いは多正方か。/「将曹正方」。(『小右』同5・10・29)	多武吉(一)	在：大日本古記録本『小右記』は物部武能とする。(『小右』寛弘5・1・13)第一者。紀正方と比して将曹に任ず由。(『小右』寛弘5・10・29)/権隨身。(『小右』同5・12・26)
			秦正親(一)	在：藤原実資隨身。(『小右』寛弘5・11・1)		
寛弘8年(1011)	茨田重隣(重近)(一)	在：(『権記』寛弘8・2・10)	秦正延(一)	在：(『権記』寛弘8・4・15)	和氣力仲通(一)	在：(『小右』寛弘8・7・17)
	秦延命(一)	在：(『権記』寛弘8・4・15)/藤原公季隨身。(『権記』同8・6・20)	身入部仲信(一)	在：(『権記』寛弘8・8・23)	若狭部亮範(一)	在：右近か。(『小右』寛弘8・7・17)
	(姓不詳)武士(一)	在：(同上、同8・8・23)/物部武能(武吉)或いは多武仁か。	清井正武(一)	在：(『小右』寛弘8・1・13)/大日本古記録『小右記』は清井正武とする。	紀保方(一)	在：(『小右』寛弘8・12・27)
	秦為国(一)	在：左大臣隨身。(『権記』寛弘8・6・20)				
長和元年(1012)					佐伯光頼(一)	在：(『小右』長和11・5・6)/或いは物部光頼か。
長和2年(1013)	秦為国(一)	在：隨身。(『御堂』長和2・1・6)	清井正武(一)	在：(『世紀』、『小右』長和2・4・23)		
	藤原カ兼光(一)	在：(『小右』長和2・2・3)/大日本古記録『小右記』は藤原に作る。同時期に右近衛府に中臣兼光あり。	秦正親(一)	在：(『御堂』長和2・9・16)	紀保方(一)	在：右近生か。(『小右』長和2・1・26)
	秦延命(一)	在：内大臣隨身。(『小右』長和2・8・27)	下毛野公忠(一)	在：(同上)	(姓不詳)仲沖(一)	在：(『小右』長和2・2・19)
	榎本孝理(一)	在：(『小右』長和2・9・16)	物部光頼(一)	在：(同上)	若狭部亮範(一)	在：右近か。(同上)大学府相模按。(『小右』同2・7・23)
	雀部是國(一)	在：(同上)	下毛野公頼(一)	在：右近所生か。(『小右』長和2・2・19、『世紀』長和2・5・4)	下毛野公季(一)	在：(『小右』長和2・3・18)/右所生か。(『小右』長和2・9・28)
	日下部清武(一)	在：(同上)	勝良真(一)	在：(『小右』長和2・8・16、同2・8・27)	佐伯光頼(一)	在：(『小右』長和2・2・24)/或いは物部光頼か。
					(姓不詳)孝良(一)	在：(『小右』長和2・7・26)
長和3年(1014)	秦延命(一)	在：隨身。(『小右』長和3・1・7)	下毛野公忠(一)	在：(『小右』長和3・2・1)	多武仁(一)	在：(『小右』長和3・2・3)/或いは物部武仁か。
	雀部是國(一)	在：(『小右』長和3・5・16)	清井正武(一)	在：(『小右』長和3・2・7)	佐伯光頼(一)	在：(同上)
	榎本孝理(一)	在：(『小右』長和3・5・16)	下毛野公頼(一)	在：(『小右』長和3・5・5)	物部武仁(一)	在：(同上)
			秦正親(一)	在：(『小右』長和3・5・16)	下毛野公季(一)	故カ、公季すでに死去の記載あり。(『小右』長和3・12・3)
			播磨為理(一)	任：歩射一手二年により府生を望む。(『小右』長和3・12・2、同3・12・5)	物部宗時(一)	任カ、番長より府生に任ずるか。(『小右』長和3・12・4)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
			宇自可吉忠(一)	任：番長より府生に任ず。(『小右』治安1・10・8)	長谷部兼行(一)	任：右近か。番長より府生に任ず。(『小右』治安1・10・8)
			日下部清武(一)	任：番長より府生に任ず。(同上)	下毛野公武(一)	任：近衛。御馬騎。(『小右』同1・10・24)
治安 2 年(1022)	茨田為弘(一)	在：(『左経』治安2・11・19)	日下部清武(一)	在：藤原頼通隨身。(『小右』治安2・4・26、『左経』同2・11・19)	長谷部兼行(一)	在：右近か。(『小右』治安2・4・26)
	榎本季理(一)	在：(『小右』治安2・5・26)	下毛野公忠(一)	在：(『小右』治安2・4・26)		
	雀部是國(一)	在：(『小右』治安3・9・28)	播磨為理(一)	在：(『小右』治安2・5・26)		
			高扶武(一)	在：藤原実資隨身。(『小右』治安2・4・17)		
			勝良真(一)	在：(『小右』治安2・4・26)		
治安 3 年(1023)	(姓不詳)久友(一)	在：(『小右』治安3・4・17)	宇自可吉忠(一)	在：(『小右』治安3・1・11)	勝良真(一)	在：右近か。(『小右』治安3・5・4)
	茨田弘近(一)	在：(『小右』治安3・4・17)	下毛野公忠(一)	在：藤原頼通隨身。(『小右』治安3・4・14)	長谷部兼行(一)	在：右近か。(『小右』治安3・9・29)
	大石久遠(一)	在：(『小右』治安3・11・14)/同3・12・15、将曹申文を出す。	高扶武(一)	在：藤原実資隨身。(同上)		
			身入部保重(一)	在：(『小右』治安3・4・17)		
			播磨為理(一)	在：(『小右』治安3・12・26)		
万寿元年(1024)	茨田弘近(一)	在：關乱により禁微す。(『小右』万寿1・6・5)	宇自可吉忠(一)	在：(『小右』万寿1・9・19)		
	雀部是國(一)	在：(『小右』万寿1・9・19)	日下部清武(一)	在：(同上)		
	養武重(一)	在：(同上)	下毛野公忠(一)	在：(同上)		
			勝良真(一)	在：(『小右』万寿1・2・7)/大宰相模映。(『小右』万寿1・2・16)		
万寿 2 年(1025)				在：藤原実資隨身。(『小右』万寿2・2・21)/高扶重子。伊勢にある父高扶重の病を聞いて仮に免じて向かう。(『小右』同2・11・27)		
	日下部清武(一)	在：日下部清武を任左近府生の替として府生に任ず。(『小右』万寿2・3・15)	高扶武(一)	任：日下部清武を任左近府生の替として府生に任ず。(『小右』万寿2・3・17)		
			日下部為行(一)	任：多重孝の替として府生に任ず。(同上)		
			藤井尚真(一)	任：(同上)		
			身入部保重(一)	在：山陰道相摸使。(『小右』万寿2・7・20)/藤原頼通離隨身。(『小右』万寿2・8・5)		
			下毛野公氏(一)	任：番長より府生に任ず。(『小右』万寿2・11・16)		
万寿 3 年(1028)	尾張時頼(一)	在：この年初めて人長を奉仕す。(『左経』万寿3・11・19)	下毛野公忠(一)	在：御馬交易使。(『左経』万寿3・11・28)		

万寿4年(1027)	佐伯真成(一)	在：(『小右』 万寿4・1・18)	高枝武(一)	在：藤原実資隨身。(『小右』 万寿4・1・3)	紀元武(一)	任：番長より府生に任ず。右近か。(『小右』 万寿4・1・29)
			藤井尚貞(一)	在：「直皇」につくる。(『小右』 万寿4・2・26)	最谷部兼行(一)	故：(『小右』 万寿4・4・19)
			荒木武晴(一)	任：藤原実資隨身。『近衛』 芳廿一年、番長七年、府生最谷部兼行死闘により番長より府生に任ず。(『小右』 万寿4・4・21)	高枝常(一)	在：小一条院隨身。右近か。番長に任ず。(『小右』 万寿4・4・23)
			宇自可吉忠(一)	在：(『小右』 万寿4・7・29)	下毛野公武(一)	在：右近か。病により仮假を与える。(『小右』 万寿4・8・1)
			播磨為理(一)	在：「去年冬府生為兼依例交易進。」(『小右』 長元1・11・7)		
			勝良真(一)	在：(『小右』 万寿4・7・25)		
長元元年(1028)	尾張時頼(一)	在：(『左経』 長元1・11・13、『小右』 同1・11・15)	宇自可吉忠(一)	故：(『小右』 長元1・7・2)	玉手信頼(一)	任：右近か。番長より権府生に任ず。(『小右』 長元1・7・10)
この年「府生数十一人」の記載あり。	茨田為弘(一)	在：(『小右』 長元1・11・14)	下毛野光武(一)	任：宇自可吉忠死闘により、番長より府生に任ず。(『小右』 長元1・7・10)		
長元2年(1028)			荒木武晴(一)	在：藤原実資隨身。(『小右』 長元2・②・22)		
			下毛野光武(一)	在：藤原彰子より相模使とすべし仰せあり。大宰相模使。(『小右』 長元2・②・25)		
長元3年(1030)			藤井尚貞(一)	在：(『小右』 長元3・5・24)	多政實(一)	任：多正方子。御師。右近か。番長より府生に任ず。(『小右』 長元3・10・1)
			日下部為行(一)	在：(同上)		
			高扶武(一)	在：(同上)		
			下毛野光武(一)	在：(『小右』 長元3・5・4)		
			下毛野公忠(一)	在：(『小右』 長元3・9・22)		
長元4年(1031)			下毛野公忠(一)	在：(『左経』 長元4・4・26)	紀元武(一)	在：右近か。(『小右』 長元4・1・13)
			下毛野公武(一)	在：(『小右』 長元4・1・11)	玉手信頼(一)	任：「延頼」につくる。右近か。(『小右』 長元4・1・18)
			藤井尚貞(一)	在：(『小右』 長元4・3・22) / 淡路・阿波・讃岐・伊予相模使。(『小右』 同4・7・22)		
			下毛野光武(一)	在：(『小右』 長元4・7・19)		
長元5年(1032)			下毛野公忠(一)	在：藤原頼通隨身。(『左経』 長元5・6・11、『小右』 同5・6・22)		
			下毛野公武(一)	在：藤原頼通隨身。(『小右』 長元5・6・22)		
長元7年(1034)			荒木武晴(一)	在：(『左経』 長元7・8・22)		

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
長暦元年(1037)			下毛野助武(一)	在：(『行親』長暦1・9・16)		
長暦3年(1039)	秦武方(一)	在：藤原頼通隨身。人長。(『春記』長暦3・11・22)	下毛野助武(一)	在：(『春記』長暦3・⑩・14)		
	秦武重(一)	在：(『春記』長暦3・⑩・14)	紀元武(一)	在：(假人長。(『春記』長暦3・12・14) / 「備前権掾正六位上紀朝臣基武(年不詳)。(『大間』第五「諸衛兼国)」		
	(姓不詳)久方(一)	在：(同上)				
長久元年(1040)	秦武方(一)	在：(『春記』長久1・9・28)	(姓不詳)高助(一)	在：(『春記』長久1・9・28)		
			(姓不詳)武紀(一)	在：(同上)		
			多筋實(一)	在：「時助」につくる。(同上)		
永承3年(1046)	茨田光重(一)	在：「右近侍曹」に任ずの由。(『春記』永承3・3・3)	下毛野久安(一)	在：藤原頼宗隨身。(『春記』永承3・1・一)		
	秦近利(一)	在：藤原教通隨身。(『春記』永承3・4・12)	多筋實(一)	在：「時助」につくる。父の業を伝える。(『春記』永承3・①・29)		
			播磨貞保(一)	在：藤原頼通隨身。(『春記』永承3・4・12)		
			下毛野公武(一)	在：藤原頼通隨身。(同上)		
			下毛野助武(一)	在：(同上)		
永承5年(1050)			多筋實(一)	在：(『春記』永承5・3・6) / 「家風相伝」。(『春記』同5・3・12)		
永承7年(1052)			下毛野助友(一)	在：(『春記』永承7・4・22)		
			下毛野公安(一)	在：(同上)		
			下毛野公武(一)	在：藤原頼通隨身。第一隨身。(同上)		
康平4年(1061)	雀部重国(一)	在：(『定家』康平4・4・11)			下毛野近行(一)	在：(『定家』康平4・4・11)
	中臣兼武(一)	在：(同上)	下毛野公武(一)	在：「左近府生」。(『定家』康平4・10・26)	(姓不詳)近仲(一)	在：(同上)
			下毛野公安(一)	在：(『定家』康平4・4・11)	下毛野助友(一)	在：(同上)
					三池安武(一)	在：(同上)
					下毛野行時(一)	在：(同上)
康平5年(1062)	雀部重国(一)	在：(『定家』康平5・1・13)	下毛野公武(一)	在：(『定家』康平5・1・13) / 「備中少掾正六位上」下毛野公武。(『年不詳』。(『大間』第五「諸衛兼国)」	三池安武(一)	在：(『定家』康平5・1・13)
	中臣兼武(一)	在：(同上)	下毛野公安(一)	在：(『定家』康平5・1・13)	下毛野助友(一)	在：(同上)
					下毛野行時(一)	在：(同上)
					下毛野近行(一)	在：(『定家』康平5・4・22)
					下毛野光重(一)	在：(同上)

							樂近重(一)	任：「治可被任」として番長より府生に任ず。(「冠家」康永5・4・25)「美作大権正六位上」蔡忌寸近重<左近将軍>「年不詳」。(「大間」第五「諸衛兼国」)
治暦4年(1068)							(姓不詳)季親(一)	在：隨身。(「六条院御即位記」後三条院)
延久元年(1069)							身入部武近(一)	在：右近か。(「土右」延久1・5・5)
							(姓不詳)行方(一)	在：右近か。(「土右」延久1・5・7)
							(姓不詳)武利(一)	在：源師房隨身か。(「土右」延久1・5・13)
							下毛野助友(一)	在：府年預。(「土右」延久1・6・25)
承保4年(1077)	拍則季(一)	在：将曹に任ず。(「水左」承保4・12・13)						
承暦2年(1078)	輕部季友(一)	在：「被任美作・周防掾岡次」。(「大間」第五「諸衛兼国」)						
承暦4年(1080)	佐伯忠國(一)	在：「水左」承暦4・10・21)	樂兼方(一)	在：「水左」承暦4・10・15、21)		(姓不詳)近助(一)	在：「水左」承暦4・11・7)	
永保3年(1083)	滋生行忠(正六位上)	在：「越中・越後等国掾」を拝任せんことを望む。(「大間」第五「諸衛兼国」)				播磨信貞(一)	任：番長より府生に任ず。(「師通」永保3・2・7)	
	藤沢季吉(正六位上)	在：「陸奥国掾」を拝任せんことを望む。(「大間」第五「諸衛兼国」)						
応徳元年(1084)	樂公利(一)	任：「(師通」応徳1・2・13)	滋生行忠カ(一)	在：諸国縁を申す。(「除目申文抄」近衛将監外国申文事)		拍光忠(一)	任：左近か。(「師通」応徳1・2・13)	
	拍行高(一)	在：「(水左」補遣永保四年正月十七日)	多吉貞(一)	在：「(水左」補遣永保四年正月十七日)				
応徳2年(1085)	紀清任(正六位上)	在：年勞格勳第一により将曹転任を申す。(「魚魯」別録卷第二「府官」/「申向将曹、府生紀清任<府奏>」。(「魚魯」別録卷第一)						
寛治4年(1090)	樂公利(一)	在：藤原師通隨身。(「中右」寛治4・4・15、師通」寛治4・4・15)	樂兼方(一)	在：「(中右」寛治4・4・15)				
	下毛野近行(一)	在：「(中右」寛治4・4・15)						
	樂武元(一)	在：(同上)						
	播磨信貞(一)	在：白河上皇隨身。(「師通」寛治4・4・13、中右」同4・4・15)						
	下毛野武忠(一)	在：藤原師通隨身。(「中右」寛治4・4・15、師通」寛治4・11・23)						
寛治5年(1091)	樂公利(一)	在：「(師通」江逸」寛治・1・18/年預。相模使。(「師通」同5・2・14)	下毛野敦久(一)	任：「(中右」寛治5・3・27/藤原師通隨身。府生に任ず。(「師通」同5・6・13)		下毛野武忠(一)	在：藤原師通隨身。(「師通」寛治5・3・8/4・15、中右」同5・3・27)	

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	播磨信實(一)	在：(『御通』寛治5・3・26、 ^{〔中右』} 同5・3・27)/白河上皇隨身。(『師通』同5・4・15)	兼兼方(一)	在：人長。(『江逸』寛治5・2・11)/人長。(『師通』同5・3・26、 ^{〔中右』} 同5・12・7)	兼武元(一)	在：白河上皇隨身。(『江逸』寛治5・2・11)/左近み。(『武基』につくる。(『師通』同5・3・26、 ^{〔中右』} 同5・3・27)/白河上皇隨身。(『師通』同5・4・15)
	兼武清(一)	在：(『江逸』寛治5・1・18)	下毛野教頼(一)	在：(『江逸』寛治5・1・18)	大石季行(一)	在：左近み。(『師通』寛治5・12・13)
			身人部(名不詳) [一]	在：(同上)	多實忠(一)	在：(『江逸』寛治5・8・1)
			三池安久(一)	在：(同上)		
			下毛野安忠(一)	在：(同上)		
			兼武実(一)	在：(同上)		
			六人部久定(一)	在：(同上)		
寛治6年(1092)	大石季行(一)	在：(『御通』寛治6・7・10)/季行本望のうえ、格勲者たるにより陸奥兼遠任を申すも格勲者は遠国に任せずべからずにより陸奥家に任せず。 (『魚録』別録巻第五「近衛官任兼外国所付」)	(姓名不詳)[一]	在：「名不知」。(『師通』寛治6・7・10)	下毛野武忠(一)	在：(『御通』寛治6・4・7/16、 ^{〔中右』} 同6・4・20)/藤原師通隨身。(『中右』)同6・7・21
	兼公利(一)	在：藤原師実隨身。(『中右』寛治6・2・6、 ^{〔師通』} 寛治6・2・6)	下毛野教久(一)	任：右近府生み。(『中右』寛治6・1・27)/藤原師実隨身。(『中右』同6・4・20)/ただし、任府生は6月とあり。(『師通』同5・6・13)	(姓不詳)成兼 [一]	在：(『御通』寛治6・8・3)
	兼武元(一)	在：白河上皇隨身。御馬使。(『中右』寛治6・7・25)	播磨信實(一)	在：白河上皇隨身。(『中右』寛治6・3・24)	下毛野教重(一)	在：(『御通』 ^{〔中右』} 寛治6・4・20)
			多實忠(一)	在：「佐忠」につくる。(『中右』寛治6・7・20)	(姓不詳)近行 [一]	在：(『中右』寛治6・4・20)
					下毛野教時(一)	在：藤原師通隨身。(『中右』寛治6・7・21)
寛治7年(1093)	播磨信實(一)	在：上臈み。(『師通』寛治7・4・21)/康和11・4・25、 ^{〔馬鹿頭』} とあり。	下毛野延実(一)	在：上臈み。(『師通』寛治7・4・21)/菅原に任ず。(『師通』寛治7・12・27)	兼公利(一)	在：(『御通』寛治7・1・1)/上臈み。(『師通』寛治7・4・21)
	下毛野近季(一)	在：白河上皇隨身。元左近府生。 (『中右』寛治7・12・27)	兼兼方(一)	在：安教第一考。(『中右』寛治7・1・18)/人長。「御縁伝古風歌」と評す。(『中右』同7・3・11)/人長。(『江逸』同7・3・20)	下毛野武忠(一)	在：(『師通』寛治7・4・21)/上臈み。(『師通』寛治7・4・21)/ ^{〔江逸』} 同7・11・21)/隨身を停め、本府に返すところを雑色に任ず。(『中右』寛治7・12・21)
	下毛野教久(一)	任：隨身たるにより右近府生より転任する。(『中右』寛治7・12・27)	下毛野教久(一)	在：左近府生に転任する。(『中右』寛治7・12・27)	下毛野教時(一)	在：「厚時」につくる。(『江逸』寛治7・11・21)
	兼公利(一)	在：(『師通』寛治7・1・1)/上臈み。(『師通』同7・4・21)/御隨身。(『中右』同7・1・1)	播磨信實(一)	在：白河上皇隨身。(『中右』寛治7・5・9)		

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
康和元年(1099)	泰公利(一)	在：『師通』康和1・3・1、『時範』同1・4・24)	下毛野忠久(一)	在：藤原師実隨身。『師通』康和1・3・15、同1・4・25)／『時範』同1・4・24)	下毛野教利(一)	任：「敦俊」につくる。番長より府生に任ず。『師通』康和1・3・5)
	滋生行忠 〔正六位上〕	在：「周防・紀伊国接嗣」を拜任せんことを望む。『大問』第五「諸衛兼国」			下毛野教重(一)	在：藤原師実隨身か。『師通』康和1・3・15、同1・4・25)
	道守成季 〔正六位上〕	在：「讃岐接嗣」を拜任せんことを望む。『大問』第五「諸衛兼国」			下毛野武忠(一)	在：藤原師実隨身。『師通』康和1・4・25)／『時範』同1・4・24)
					兼行利(一)	在：「厚時」につくる。『時範』康和11・4・24)
					下毛野教時(一)	在：「時範』康和1・4・24)
					下毛野忠久(一)	在：「時範』康和1・4・24)
康和2年(1100)	泰武忠(一)	在：伊勢大神宮神官の跡えにより禁欲。下毛野武忠(『百鍊抄』康和2・6・28)			下毛野教利(一)	在：「院院」。(『台記』仁平1・8・11)
康和3年(1101)	(姓不詳)元正 〔一〕	任：白河上皇の天氣により左近府生に任ず。八幡舞人。『殿暦』康和3・12・11)				
康和4年(1102)	泰公利(一)	在：「中右」康和4・1・2)／「年及六旬」とあり。『殿暦』「中右」同4・5・15)／大舒方助。年預に任ず。『殿暦』同4・7・22)	多忠方(一)	在：兄弟近方とともに舞う。「二人儀十斎殿、舞林地勢、相佐家風」とあり。『中右』康和4・1・2「長秋」目六卷一)／舞頭。『中右』同2・3・9)	(姓不詳)武近 〔一〕	在：「中右」康和4・11・2)
	拍季貞(一)	在：「末貞」につくる。『中右』康和4・1・20)3・8)／舞頭。『中右』同2・3・9)	(姓不詳)助高 〔一〕	在：「中右」康和4・5・15)	下毛野教時(一)	在：藤原忠実隨身。『殿暦』康和4・4・25)／「中右」同4・11・25)／相模使に任ず。『殿暦』同4・5・1)
	拍行高(一)	在：上臈。『中右』康和4・1・2)／舞頭。『中右』同2・3・9)／『殿暦』同4・3・24)	下毛野忠文(一)	在：「中右」康和4・5・15)		
	拍光則(一)	在：「中右」康和4・1・2)／舞頭。『中右』同2・3・9)	下毛野行忠(一)	在：源雅実隨身。『殿暦』「中右」康和4・5・15)／上臈たるにより左に渡る。『殿暦』同4・5・25)		
	(姓不詳)公里 〔一〕	在：「中右」康和4・3・9)	(姓不詳)重利 〔一〕	在：府者。藤原忠実権隨身。『殿暦』「中右」康和4・11・25)		
	豊原時元(一)	在：(同上)	泰助久(一)	在：「殿暦』康和4・5・15)／康和4年中に府生に任ずるか。白河上皇隨身。白河上皇召次所に候す。『殿暦』「中右」同4・11・28)		
	(姓不詳)元正 〔一〕	在：(同上)	下毛野忠久(一)	在：「殿暦』康和4・5・15)／上臈たるにより左に渡る。『殿暦』「中右」同4・5・25)		
	下毛野教利(一)	在：「院院者」年少者。白河上皇隨身。『殿暦』「中右」康和4・5・15)／下臈。『殿暦』同4・5・25)／「美非御隨身候召次所」。『中右』康和4・4・28)	泰公種(一)	任：藤原忠実隨身に任ず。府生に任ず。右近府生か。『公胤』につくる。『殿暦』「中右」同4・11・25)		

	中臣兼重〔一〕	在：「候院者」 ₁₀ 。元左近府生なるも、下毛野敦清が大將隨身たるにより右に渡る。〔殿曆、〔中右、康和4・5・15〕/下殿。〔殿曆、同4・5・25〕/「実非御隨身候召次所」 ₁₀ 。〔中右、康和4・4・28〕				
	下毛野敦時〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔殿曆、康和4・4・25、〔中右、同4・11・25〕/相接使に任ず。〔殿曆、同4・5・1〕/府者。藤原忠実権隨身。〔殿曆、同4・11・25〕				
康和5年(1103)	豊原時元〔一〕	在：〔殿曆、康和5・11・28〕/任大將の時、府生より得爵に任ず。〔中右、〔世紀、同5・12・21〕	兼公種〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔殿曆、康和5・9・1、〔中右、同5・11・8〕	下毛野敦時〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔中右、康和5・12・21〕
	下毛野武忠〔一〕	在：〔重載、康和5・9・18〕				
長治元年(1104)	下毛野武忠〔一〕	任：藤原忠実隨身。この日、府生に任ず。〔殿曆、〔中右、長治1・4・9〕	兼公利〔一〕	在：「公後」につくる。〔中右、長治1・4・17/12・27〕	兼行利〔一〕	在：「行後」につくる。藤原忠実隨身。〔中右、長治1・4・17〕
	下毛野敦時〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔殿曆、〔中右、長治1・4・9〕/相接使。〔殿曆、同1・7・19〕	下毛野忠久〔一〕	在：〔中右、長治1・12・27〕	拍季眞〔一〕	在：〔中右、長治1・8・1〕
			兼公種〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔殿曆、〔中右、同1・4・9〕/相接使に任ずるか。〔殿曆、同1・3・19〕	拍光則〔一〕	在：〔同上〕
					拍行眞〔一〕	在：〔同上〕
					下毛野敦利〔一〕	在：「候院之人」 ₁₀ 。〔同上〕
					兼兼久〔一〕	在：「候院之人」 ₁₀ 。〔同上〕
					中臣兼重〔一〕	在：「院院之人」 ₁₀ 。〔同上〕
長治2年(1105)	兼公利〔一〕	在：〔中右、長治2・1・18〕	兼助久〔一〕	在：〔中右、長治2・1・18〕	下毛野忠久〔一〕	在：〔同上〕
	下毛野敦時〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔殿曆、〔江逸、長治2・1・5、〔中右、同2・2・28/4・15〕	兼公種〔一〕	在：藤原忠実隨身。〔中右、長治2・4・17、〔殿曆、同2・4・18〕	中臣兼重〔一〕	在：「院院者」 ₁₀ 。〔同上〕
	豊原時元〔一〕	在：〔殿曆、長治2・8・27〕			大中臣兼重〔一〕	在：「院院生」 ₁₀ 。中臣兼重と同一人物 ₁₀ 。〔栄昌、嘉承1・4・22/12・16、〔中右、同1・12・18〕
嘉承元年(1106)	〔姓不詳〕道守〔一〕	在〔栄昌、嘉承1・12・16〕	兼助清〔一〕	在〔栄昌、嘉承1・12・16〕	〔姓不詳〕行高〔一〕	在：下毛野行高 ₁₀ 。〔栄昌、嘉承1・4・24〕
	〔姓不詳〕重季〔一〕	在：〔同上〕	兼公利〔一〕	在：〔中右、栄昌、嘉承1・4・24〕	下毛野敦利〔一〕	在：「致俊」につくる。〔院院生」 ₁₀ 〔栄昌、嘉承1・4・22〕
	下毛野敦時〔一〕	在：「厚時」につくる。藤原忠実隨身。〔栄昌、嘉承1・12・16〕/〔殿曆、〔中右、嘉承1・3・29〕	下毛野忠久〔一〕	在：〔同上〕	下毛野行忠〔一〕	在：〔栄昌、嘉承1・4・24/12・16〕
					下毛野武忠〔一〕	在：〔栄昌、嘉承1・12・16〕

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
					泰助久(一)	在：「院府生」。(「中右」嘉承1・4・24)
					(姓不詳)重時(一)	在：藤原忠実隨身。(「殿暦」嘉承1・11・8)
嘉承2年(1107)	拍季真(一)	在：「未定」につくる。(「中右」嘉承2・1・19)	下毛野忠久子(一)	在：名不詳。(「殿暦」嘉承2・4・16)	下毛野敦時(一)	在：藤原忠実隨身。(「殿暦」嘉承2・4・14、中右同2・4・16)
	拍光時(一)	在：(同上)	泰公蓮子(一)	在：藤原忠実隨身。名不詳。(「殿暦」嘉承2・4・16)	大中臣兼重(一)	在：「院府生」 ₁₀ 。中臣兼重と同一人物 ₁₂ 。(「采昌」嘉承2・4・14)／「候院之者」 ₁₀ 。(「中右」同2・4・16)
	下毛野敦重子(一)	在：元藤原師通隨身 ₁₀ 。名不詳。(「殿暦」嘉承2・4・16)	泰公蓮(一)	在：藤原忠実隨身。(「殿暦」嘉承2・10・16)	下毛野敦利(一)	在：「采昌」嘉承2・4・16)／「候院之者」 ₁₀ 。(「中右」同2・4・17、殿暦同2・4・26)
					兼兼久(一)	在：「院」 ₁₀ 。「采昌」嘉承2・4・16)／「候院之者」 ₁₀ 。(「中右」同2・4・12)
					下毛野武忠(一)	在：「中右」采昌。嘉承2・4・16)
					下毛野行高(一)	在：藤原。(「殿暦」嘉承2・1・19)／(「中右」采昌同2・4・16)
					下毛野忠久(一)	在：「中右」采昌。嘉承2・4・16)
					兼行利(一)	在：「中右」嘉承2・4・16)
					(姓不詳)重時(一)	在：藤原忠実隨身。(「殿暦」嘉承2・3・20)
天仁元年(1108)	下毛野敦時(一)	在：藤原忠実隨身。(「殿暦」江逸 ₁ 天仁1・10・21)／(「中右」同1・11・1)	多近方(一)	在：「中右」天仁1・11・17、殿暦同1・11・18)	下毛野忠久(一)	在：「中右」天仁1・4・17)
			泰公蓮(一)	在：「殿暦」江逸 ₁ 天仁1・10・21)	下毛野武忠(一)	在：(同上)
			(姓不詳)兼兼(一)	在：「殿暦」天仁1・10・21)	兼行利(一)	在：(同上)
					下毛野行忠(一)	在：(同上)
					下毛野敦利(一)	在：「中右」天仁1・11・12)／白河上皇隨身。(「殿暦」同1・12・16)
					下毛野敦則(一)	在：「院候者」。(「中右」天仁1・11・3)
天仁2年(1109)	下毛野敦利(一)	在：「院院人」。(「殿暦」天仁2・9・6)	兼兼久(一)	在：白河上皇隨身。兼兼方男。(「殿暦」天仁2・8・2・9・6)／子息弟とともに熊野に参る。(「中右」同2・11・7)		
	(姓不詳)友光(一)	在：(同上)	(姓不詳)近恒(一)	在：「殿暦」天仁2・9・6)		

	下毛野武忠〔一〕	在：（同上）	兼公種〔一〕	在：藤原忠実隨身。（『殿暦』天仁2・4・23/9・6）/中將云節。（『殿暦』同2・10・4）		
	下毛野敦時〔一〕	在：藤原忠実隨身。「敦言」につくる。（同上）	中臣兼重〔一〕	在：「候院人」。（『殿暦』天仁2・9・6）		
	中臣近時〔一〕	在：源雅実隨身。（同上）	兼勘久〔一〕	在：白河上皇隨身。（『殿暦』天仁2・8・8、9・6）		
			兼行利〔一〕	在：（『殿暦』天仁2・8・27/9・6）		
			下毛野忠久〔一〕	在：（『殿暦』天仁2・9・26）		